

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2024-1009	利用形態	共同研究		
研究題目	ヒト免疫受容体遺伝子のコピー数多型解析			研究期間	2024年7月～2027年3月
主たる研究機関	立命館大学		責任者 氏名・職	中山 勝文	教授
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	木下 賢吾	教授
	名古屋大学		責任者 氏名・職	中枿 昌弘	教授
研究目的と意義	免疫システムは多くの炎症性疾患の発症・増悪に深く関与することから、免疫関連遺伝子多型が疾患感受性の決定要因となります。その解明はさまざまな炎症性疾患の予防法・治療法の確立に繋がることが期待されるものの、十分に明らかにされていません。そこで本研究では、免疫機能分子の遺伝子コピー数と炎症性疾患との関わりを解析します。				
研究計画概要	東北メディカル・メガバンク機構の研究リソースとして既に収集された地域住民コホートおよび三世代コホートの大規模電子情報から、免疫機能遺伝子情報と健康調査情報を抽出し、その遺伝子コピー数多型と炎症性疾患との関連を解析します。対象疾患として、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、高尿酸血症を中心に解析します。また並行して検体検査データや服薬情報といった健康調査情報との関連についても解析します。 本研究は、東北大学、名古屋大学、および立命館大学の3つの機関で実施します。				
利用試料・情報	対象：東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査及び三世代コホート調査に2013年以降参加された全ての方。 試料：なし 情報：病歴、服薬歴、喫煙歴、検体検査データ、遺伝子				
期待される成果	多くの炎症性疾患の発症・増悪レベルには個人差が認められるものの、その理由は明確ではありません。本研究成果により、免疫機能分子の遺伝子コピー数と炎症性疾患との相関が認められれば、免疫機能分子およびそのシグナル伝達経路を標的とした新たな治療法の開発に繋がることが期待されます。				
倫理審査等の経過	2024年6月 立命館大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティー面の配慮	情報は東北大学東北メディカル・メガバンク機構において個人が特定できないよう氏名等を削除し、共同研究機関の名古屋大学医学研究科および立命館大学薬学部へ提供します。なお対応表は、東北大学の研究責任者が保管・管理します。				
その他特記事項	この研究は科学研究費助成事業により実施します。				
(事務局使用欄)	*公開日 2024年7月9日				